| | |
|---|---|
| 学位被授与者氏名 | 岩岡　美咲（いわおか　みさき） |
| 論文題目 | 日米障害者自立生活セミナーが北九州市の重度身体障害者の自立生活に及ぼした影響<br>―北九州市における自立生活センター設立者への調査から― |
| 論文審査結果の要旨 | 本論文は、文献調査と当時の自立生活センター設立に関与した障害者へのインタビュー調査を組み合わせ、セミナーが障害者に自立生活の概念を伝え、運動に一石を投じた点と、政策改革や支援体制の即時変革に直結しなかった点という両面から議論を深めている。<br>まず、著者はアメリカにおける障害者自立生活運動と、北九州市における福祉行政主導の支援体制という地域的特性との違いに着目し、セミナーを契機とした運動の発展過程を時系列的に整理している。特に、セミナー開催当初の教育的意義およびその後の運動の属人化や、地域ごとの実情に基づく展開への課題を明らかにしている点は高く評価できる。さらに、歴史的事実の羅列だけに終始せず、障害者自身によるエンパワーメントの必要性や、地域社会の受容度という側面に焦点を当てた考察は、今後の障害者支援のあり方を考える上で示唆に富んでいる。<br>一方で、本論文には改善すべき点も多いと考えられる。まず、文献資料およびインタビュー調査の対象が限定的であったため、調査結果に偏りが生じ、分析の幅が狭まった可能性が否めない。より多様な関係者の視点や、他地域との比較検証を加えることで、北九州市の自立生活運動が持つ独自性をより鮮明に描き出す必要がある。<br>また、セミナーが果たした役割については、事実の羅列的整理に終始しており、なぜその後の政策改革や支援体制の変革に直接結び付かなかったのかという歴史的因果関係の解明が不十分である。たとえば、八幡製鉄所や労災病院といった地域基盤との関係についても、さらに踏み込んだ分析がなされていれば、北九州市という地域特有の支援体制形成過程がより立体的に理解できたであろう。<br>また、論文が示す文化的背景や社会的要因の考察は、ある程度の論点提示には成功しているものの、運動の属人化という側面について他地域の事例も参照しながら議論を深化させることで、学術的な議論がより充実するとの印象を受ける。<br>なお、本論文の大きな功績として、全身性の重度身体障害者の当事者でもある著者が、自身の経験を背負いながらも歴史研究に果敢に挑戦し、最後まで丁寧に分析を進めた点は賞賛に値する。歴史的事実の整理と、そこから導かれる今後の障害者自立生活支援の提案は、地域社会における支援体制の今後のあり方を考えるうえで貴重な示唆を与えるものである。<br>総合して、本論文は北九州市における障害者自立生活運動について、一定の学術的意義を有すると認める。しかしながら、今後の展開としては、より多角的で比較的な調査手法の導入、さらなるデータの収集、そして地域特性の詳細な分析を進めることが望まれる。これにより、当事者を中心とした実践の在り方や、歴史的因果関係の解明がさらに深化し、障害者支援の普遍的課題に対する理解が一層進むであろう。歴史と地域性が次なる歴史を作り出すとの視点からも、本論文が北九州市における重度障害者の地域生活支援に対して貴重な示唆を与える研究であると評価する。 |

| | |
|---|---|
| | 2025 年 2 月 6 日に、北九州市立大学北方キャンパス本館 B-303 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。 |